「海外事業で成長する」IHI のグループ全体の戦略を，ICT でサポートする

株式会社 IHI エスキューブ
代表取締役社長
草葉　義夫

株式会社 IHI エスキューブは，技術系，事務系を問わず IHI グループのほぼ全社，全セクターで使われる情報システムの開発，運用，保守を行う会社です．これまでは，受注することから事業が始まり技術提供してきましたが，その蓄積を活かしつつ，現在，IT 技術で解決できることを自分たちから積極的に提案，プロデュースする方向へと転換を試みています．IHI グループ全体に共通する「海外事業で成長する」という目標に対応するためにも，海外研修を行い，ICT の国際認定にも挑戦しております．

株式会社 IHI エスキューブ (IS3) が，情報通信関係の技術 (ICT (Information and Communication Technology)) を活かして扱うソリューション分野は五つあります．まずは，顧客情報などの営業ツール，財務，人事，資産管理など「業務支援」ソフトウエアの開発と運用，保守です．IHI グループの各社で使われているこれらのシステムは IS3 がそれぞれの現場に合わせて開発，運用，保守を行っています．続いてはものづくりの現場における「設計，生産，物流」のソリューションです．3D-CAD を使った設計システムや数値解析，生産管理，また保管，仕分けの物流を ICT 化し現場作業をサポートするシステムを手がけています．三つ目の「制御・監視」ソリューションは，画像監視や生産設備の遠隔操作制御などのシステムから，オイルリークモニタなどの製品も開発してきました．これらについては 2013 年 10 月 1 日から株式会社 IHI 検査計測に事業を移管することになっております．さらには，IHI グループの情報インフラ，社内ネットワークの構築およびそのソフトウエア開発，ハードウエアの構築，保守などの「通信ネットワーク・ソリューション」，また，無停電，免震装置を組み込んだ大型の「データセンター」サービスも行っています．

IS3 は，IHI のグループ内での業務が主ではありますが，これまでに培った経験，技術をベースに汎用性のあるシステムや製品を開発し，グループ外のお客さまに向けてもコンサルティングから開発，運用，管理を提供するほか，オリジナルの製品を販売しています．例えば，業務系ソリューションの一つ，安否確認システム「iS-Anpi」は，緊急地震速報が発表される

と，その位置，予想震度に応じてメールを発信し，安否や業務遂行の可否，支援の要否などの確認を行うものです．以前から販売しておりましたが，東日本大震災以降引き合いが増えています．また，物流ソリューション分野では，倉庫管理システム（iS-WMS）が好評です．こちらは，特に，3 年前から始めた音声認識システムがお客さまの作業の効率化に貢献しています．また，プラント建設などの現場合わせ配管に用いる「InSight Eye（インサイト アイ）」という配管の設計システムおよび機器も開発しました．これは，大型構造物などの組み立ての際にずれが生じると，最後の配管設置時にボルト穴が合わないなどのずれが生じることがある．それを避けるために組立現場でレーザ計測を行って 3D の設計データを作り，それを基に結合する管を生産する機器です．この装置のおかげで配管および作業の無駄が削減されました．

音声ソリューション

変わったところでは，駐輪場・レンタサイクルのシステムも手がけています．これは，自転車の出入りや課金を，ネットワークを使ってデータセンターで一括管理するもので，このソフトウエアおよび管理システムは，いずれカーシェアなど別のものに転用，発展させられる技術と考えております．

今注力しているのは，IHI グループのグローバル事業のサポートです．その第一弾として，まず，ヨーロッパ，アジア，中国，南北アメリカの各地の拠点と日本を専用回線でつなぎました．もちろん，インターネットを使っても情報のやりとりは可能ですが，セキュリティの問題が常につきまとうため，大きなデータがやりとりでき，機密やテレビ会議などの情報が漏えいしない専用回線が求められておりました．今後は，このネットワーク上で動かすさまざまなソフトウエアを開発していきます．例えば，海外の地域統括拠点の事業管理一つとっても，国別，あるいは製品別のデータがそれぞれに必要です．現在は各部署，各担当者が個別に管理しているような状況ですが，グローバル事業に対応した横断的な業務管理システムの構築が急がれます．

私たちはこの状況に対応すべく，数年前から国際研修を積極的に行ってきました．具体的にはインドの IT 関連会社に中堅社員を 3 週間ほど派遣し，現地でプロジェクト・マネジメントの資格試験に挑んでいます．春と秋の 2 回実施していますが最近，2 回のうち 1 回を ITIL（Information Technology Infrastructure Library）というコンピュータシステムの運用に携わる人の国際認定に向けた研修に変更しました．これら人材開発プログラムの成果として，経験者が積極的になることが挙げられます．これまでの私たちの業務フローとしては，関連会社から発注の見積もりが出てから動き出すのがほとんどでしたが，今，その向きを反対にしようとしています．つまり技術者が全員営業マンになったつもりで，世界各地の IHI の拠点に出掛けて行ってニーズを聞き取り，役立つシステムを提案することを目指しているわけですが，研修経験者は率先してその努めを担ってくれることを期待しています．

また，ニーズを受けて開発するにはこれまで以上に技術力を向上させる必要があります．そこで，社内を横断する形で「モバイル」「クラウド」「セキュリティ」「ビッグデータ」という四つのテーマの研究開発チームを作り，問題解決にこれらの技術をどのように活かすことができるのかを研究しています．

IHI のほとんどすべての部門と関連していることを強みに，今後も製品サービスに直結するような提案を ICT の現場から生み出していきたいと考えております．